

総務文教常任委員会審査概要報告書

委員長 筏井 哲治

- I 開催年月日 令和 5 年 5 月 23 日（火）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 45 分
III 出席委員等〔出席委員〕◎筏井 哲治 ○石須 大雄 山上 尊士
熊木 義城 酒井 善広 横田 誠二
藪中 一夫 水口 清志 大井 正樹
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔議長〕 中川加津代
〔副議長〕 ※酒井 善広副議長は委員として出席
〔説明員〕 別紙名簿のとおり（木村秘書課長が公務のため、
上口納税課長が病気療養のため欠席）
〔委員外議員〕 梅島 清香
〔事務局職員〕 笹島 永吉 高嶋 史恵 堀 泰平
〔傍聴者〕 1 名

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔未来政策部〕

。高岡市DX推進アクションプランに係る令和 4 年度の実績について

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〔総務部〕

(1) 令和 5 年度高岡市職員採用試験の概要について

(2) 令和 4 年度寄附金（ふるさと納税等）の状況について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

（以下、質疑・質問内容は ○、答弁内容は △ で表示）

【令和4年度寄附金（ふるさと納税等）の状況について】

- 法人等からの寄附について、令和4年度は3年度と比較して件数は同程度であるが、金額が半減した理由は。
- △ 3年度の寄附額は約6,400万円で、4年度の寄附額は約2,900万円となっている。これは3年12月に高岡スポーツコアと高岡おとぎの森公園に関してプロジェクト型企業版ふるさと納税メニューを立ち上げており、3年度は当初のPR効果により企業から多くの寄附があったが、4年度は少し落ち着いてきたことで半減したものである。なお、3年度を除く過去5年間の法人等からの寄附金の平均額は、2,000万円から3,000万円ほどで推移しており例年の水準に戻った形となる。引き続きプロジェクト型企業版ふるさと納税メニューのPRに努めるとともに、今後、新しいメニューが立ち上がることになれば周知していきたい。
- ふるさと納税による収入額から手数料等を差し引いた実質の収入額は。
- △ 4年度分については、現在精査しているところである。
- ふるさと納税を含めた寄附金額は右肩上がりの傾向で、4年度は3年度とほぼ同額で少し落ち着いてきたところであるが、法人等からの寄附はまだまだ伸びしろがあると思われるので、5年度も引き続き積極的に取り組んでいただきたい。（要望）
- ふるさと納税で寄附していただいた方々に対するお礼の手紙は、どのような内容で送付しているのか。
- △ 現在、寄附していただいたすべての方に対して、高岡市からお礼状を送付しているが、委託業者の定型的文章となっている。今後、例えば高岡市独自のメッセージカードに市長の手書きの謝辞を入れたり、カードにQRコードを配置することで、本市の観光情報や魅力を広くお知らせできるものを作成することを考えている。この場合、委託業者から寄附者に一斉にお礼状を送付することができないため、返礼品事業者の協力を得て、返礼品を発送する際に同梱し、本市を2度、3度と応援いただけるリピーターを獲得できる仕組みができないか検討しているところである。
- ふるさと納税で本市に寄附していただいた方々は、どの地域の方が多いのか。
- △ 東京都、神奈川県、大阪府、愛知県といった関東、関西、中京の大都市に居住している方からの寄附が多くなっている。
- ふるさと納税で返礼を受けた方からの評判は。
- △ 市長のメッセージについては、本会議でも質問をいただき、返礼品の委託をしている事業者と協議をしているところであり、今後、実践のステップに入り、何かしらの反応があれば吸い上げていきたい。また、返礼品については、多種多様なものを用意している中で、寄附をしていただく方がご自身で選ばれることから、満足度は高いと考えている。
- 市外から高岡市に寄附いただいた分と高岡市民が他市へ寄附した分の差引額は。
- △ 4年度の実績はまだ出ていないが、3年度の場合、本市への寄附額は約4億4,000万円、本市から他市へ寄附されたことにより市税が減少した額が約2億4,000万円で、差し引き約2億円の黒字となっている。この金額は単純な差引額となるが、返礼品の調達や発送にかかる経費が差し引かれること、その一方で寄附控除により市税が減収になった分の一部が普通交付税で補填されることを考慮した場合、約1億

7,000 万円の黒字となる。

- 黒字傾向であることは大変喜ばしいと思っているが、この結果を受けて5年度のふるさと納税の施策については、どのように取り組んでいくのか。
- △ 先程答弁した内容と重複するところもあるが、5年度については、プロジェクト型企業版ふるさと納税メニューのPRや、市長メッセージの返礼品への同梱を検討しているところである。また、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されてきたことで、富山県人会、東京高岡会、近畿高岡会などの場を活用し、本市に縁があり応援していただける方々への対面型でのPR等を通じてふるさと納税を呼びかけることも検討していきたい。返礼品そのものについても、食に関するものをできるだけ取り込むために事業者に声がけをするなど、幅広く取り組んでいきたい。

【令和5年度高岡市職員採用試験の概要について】

- 令和5年度から事務職の区分に高校新卒者の採用枠を設けたねらいは。
- △ 卒業を契機として就職のために他県へ行くことがあるが、就職担当の先生方からは、一度県外に出たいという生徒がいる中で、県内で働きたいものの、需要が不足しており、やむなく県外で就職する生徒もいるという話を聞いている。4年度までは、高校新卒者については、短大卒・専門学校卒・高校卒という一括りの中で募集していたが、特に筆記試験のある一次試験では、高校新卒者よりも短大卒や専門学校卒の方が合格するケースが多く、就職の意向はあるものの、残念ながら採用には結びつかない状況があった。こうした地元で働きたいと考えている高校生が、本人の意思に反して県外に流出することを防止したいという思いから、今回、市が率先して地元で就職する場として、高校新卒者を想定した採用枠を設定することとした。
- 最近の事務系の求人では、ほとんどの場合、受験資格が大学卒となっている。市が地元の各学校の意向を把握した結果、今回、高校新卒者を想定した採用枠を新たに設けたものであることから、大切に守っていただくとともに、この採用枠が充当するよう対応に努めていただきたい。（要望）

2 その他

- 。本委員会の行政視察について
行政視察の実施に向けて視察先や調査項目について検討することが報告された。

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【小学校における地元食材や地場農産物への理解を深める取組状況について】

- 令和5年5月12日と13日にかけて、富山市でG7教育大臣会合が開催された。5月12日には、富山市の芝園小学校において、2年生の小学生と各国の大臣が地元食材を使った給食を味わったことが報道された。給食で地元食材や地場農産物に触れる機会があることは、大変大切なことだと思っている。本市では、給食以外にも学校の授業などにおいて、小学生が地元食材や地場農産物への理解を深める機会

を設けているのか。

- △ 本市の各学校では、野菜の栽培体験などを学校の教育計画に位置付けて実施しており、直接、地域の農家の方などから、地元食材、地場農産物の栽培や収穫などについて指導を受けているところである。また、学校によっては、たかおか地産地消推進ネットワークが主催している収穫体験授業にも参加しており、4年度は6つの小学校が、ぶどう、りんご、にんじんの収穫体験を行った。5年度も引き続き、これらの作物に小松菜を加えた4つの作物について実施する予定としている。こうした取組を通じて、児童が地元食材、地場農産物の生産販売に携わる方々への感謝の気持ちを育むとともに、地元食材、地場農産物への理解を深めるよう努めている。
- 昨今の環境の中では、子どもたちが自然の食材に収穫などを通じて接する機会はほとんどないと思われる。子どもたちが食材に身近で触れる体験は非常に大切であることから、農家の方々の協力も得ながら、今後もこうした活動に努めていただきたい。(要望)

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔教育委員会〕

- 「たかおかスポーツDAY」の開催について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【「たかおかスポーツDAY」の開催について】

- 「たかおかスポーツDAY」について、何名ほどの参加を見込んでいるのか。
- △ 今回のスポーツイベントについては、様々な運動や遊びを通じてスポーツの楽しさや喜びを知っていただくことや、日頃スポーツをしていない方には、スポーツに対して関心を持ってもらい、習慣化を図るきっかけづくりとすることを目的としていることから、参加人数は特に定めていない。
- スポーツ体験、体力テスト会、健康測定は同じ時間帯となっているが、これらの住み分けはどのようにするのか。
- △ 会場である東洋通信スポーツセンターのアリーナ内は広いため、それぞれのコーナーを分割して設けることで、例えばスポーツ体験終了後、健康測定に参加、健康測定終了後、体力テスト会に順次参加できるように対応する予定としている。
- スポーツ体験では、複数の種目を実施するとのことだが、現時点で想定している種目は。
- △ 現時点では確定はしていないが、ボッチャ、モルック、ディスクゲッター、シャッフルボード、カラーリング、バグギーなどの気軽にできるスポーツとして、6種目から7種目ほどを準備したいと考えている。
- ウォーキングイベントについては、参加申込不要で万葉線で新湊まで行く内容となっているが、通常の乗客がいる中で、参加者が多い場合の対応はどのように考えているのか。

- △ 参加人数が多い場合は2便に分けて行くことを想定している。最大で250人ほどには対応できると考えており、その場合には2便、3便に分けて行くことを想定している。
- スポーツ体験のメニューとして、ボッチャ、モルックなどの種目を考えているとのことだが、どのような内容の種目であるか分かるようにPRすることを検討していただきたい。(要望)

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

総務文教常任委員会 当局説明員（25名）

未来政策部長 未来政策部政策監	鶴 谷 俊 幸	会計管理者 会計課長	柳 原 隆
未来政策部次長 未来課長	日 名 田 尚 明		
未来政策部次長 企画課長	新 田 裕 子	教育長	近 藤 智 久
情報政策課長	布 橋 み ち る	教育次長	杉 森 芳 昭
総合交通課長	表 野 勝 之	教育次長 学校教育課長・教育改革推進室長	岩 田 正 弘
秘書課長	木 村 文 徳	教育総務課長	津 幡 佳 成
広報発信課長	芹 山 奈 緒 樹	生涯学習・スポーツ課長	澤 田 剛 章
		文化財保護活用課長	池 守 凡 子
総務部長 選挙管理委員会事務局長	梅 崎 幸 弘		
総務部次長	柴 野 泰 彦	監査委員事務局長	崎 安 宏
総務部次長 財政課長	村 上 彰		
総務部次長 総務課長	長 谷 川 聡		
人事課長	新 保 貴 之		
危機管理課長	橘 篤 志		
管財契約課長	新 田 泰 弘		
市民税課長	加 藤 康 代		
資産税課長	山 本 明 宏		
納税課長	上 口 裕 之		